

A-PRAS の今後の方向性に関する検討（案）

2026年4月21日

文部科学省 科学技術・学術政策局 研究開発戦略課

本資料は、現行制度の運用実績や課題を踏まえ、今後の方向性について有識者の意見を得ることを目的として作成した検討資料です。現時点での検討内容を整理したものであり、最終的な決定を示すものではありません。

研究支援サービス・パートナーシップ認定制度（A-PRAS）について

【2019(令和元)年度より開始】

1. 目的

民間事業者が行う研究支援サービスのうち、一定の要件を満たすサービスを「**研究支援サービス・パートナーシップ**」として**文部科学省が認定**することを通じ、研究者の研究環境を向上させ、我が国における科学技術の推進及びイノベーションの創出を加速するとともに、研究支援サービスに関する多様な取組の発展を支援する。

2. 認定要件

- (1) 当該サービスが、**研究者の研究環境を向上**させ、我が国における**科学技術の推進及びイノベーションの創出に貢献**するものであること
- (2) 当該サービスが、**優れた特徴**を有していること
- (3) 当該サービスを行う事業者が、**大学、独立行政法人、研究機関やその研究者等と良好な関係(ネットワーク)を構築**できるものであること
- (4) 当該サービスを行う事業者が、十分な管理運営体制及び財務基盤を確保していること
- (5) 当該サービスが、(1)に掲げる要件を満たすことに寄与する事業実績を有していること

3. 認定までの流れ

民間事業者から研究支援サービスの公募(1か月程度)を行う。認定の単位は、事業者単位ではなく、サービス単位とする。文部科学省は、申請のあった研究支援サービスについて認定要件等に照らして審査を行い、外部有識者から意見を聴取した上で認定する。

※ 事業者は毎年度事業実績報告書、3年に1度点検結果報告書を文部科学大臣に提出する。

4. 認定の効果等

- (1) 認定により、**研究者の研究環境を向上させる、研究支援サービスの利活用を奨励、促進し、研究コミュニティ等に対する認知度を高める**。

認定事業者は、**A-PRASのロゴマークを使用可能**。



A-PRAS:
Accreditation of Partnership
on Research Assistance Service

- (2) **研究支援サービスを認定された事業者と文部科学省は、定期的または不定期に意見交換やネットワーキング等の場を設ける**。
- (3) 将来的に、認定された研究支援サービスのうち、文部科学省関連事業との連携により、当該サービスの加速が見込まれ、また、連携対象となる文部科学省関連事業にも貢献が大きいものについて**具体的な連携**(金銭的な支援(補助)は除く)を検討する。

A-PRAS認定サービス一覧 (令和8年度4月1日時点 28サービス)

■ 研究環境支援

研究活動に必要な「場所・設備」「ツール」「実務サポート」「発表の場」を提供

□ 施設・設備・ハードウェア

- 研究機器のシェアリングサービス (日本電子株式会社)
- リサイクルネットワーク マルチベンダーサービスラボストックサポート ZAICO ZAI (リカケンホールディングス株式会社 他)
- AI研究開発エンジニア向けGPUとGPUサーバレンタル (GDEPソリューションズ株式会社)
- スイッチオンで研究開始 - 研究開発環境ターンキーシステム (テガラ株式会社)
- 都市型リサーチパークにおけるレンタルラボ (京都リサーチパーク株式会社)
- ターンキーラボ健都 (京都リサーチパーク株式会社)
- レンタルラボプラス (京都リサーチパーク株式会社)

□ ソフトウェア・DX・実務サポート・解析

- 学術大会・国際会議運営支援サービス Confit (コンフィット) (株式会社アトラス)
- 学会・研究機関向け会員管理サービス SMOOSY (スムージー) (株式会社アトラス)
- Cloud LaTeX (株式会社アカリク)
- 学会運営サポートサービス (株式会社ソウブン・ドットコム)
- ResearchDX (株式会社アラヤ)
- JupyterHubを用いたデータサイエンス共用環境 (株式会社システム計画研究所)
- コンソーシアム型研究支援サービス (株式会社プロファーマ)

□ 論文・出版・広報

- エディテージ (国際研究広報サービス) (カクタス・コミュニケーションズ株式会社)
- オンラインジャーナル掲載サービス (中西印刷株式会社)
- Trinka (トリンカ) by エナゴ (株式会社クリムゾンインタラクティブ・ジャパン)
- エナゴ 科学論文校正・投稿支援サービス (株式会社クリムゾンインタラクティブ・ジャパン)

■ 研究人材支援

研究者のキャリア形成、スキルアップ、就職・採用を直接支援

- 博士情報エージェント (株式会社エマージングテクノロジーズ)
- アカリクキャリア (株式会社アカリク)
- エナゴ 研究者トレーニングサービス (株式会社クリムゾンインタラクティブ・ジャパン)

■ 研究事業化支援

研究成果の社会実装、起業、特許活用を支援

- BRAVE (Beyond Next Ventures 株式会社)
- リン・オープン・インキュベーション (日本材料技研株式会社)

■ 研究資金・マッチング支援

研究資金の調達や、共同研究パートナー・リソースの探索を支援するプラットフォーム

- JDream Expert Finder (株式会社ジー・サーチ)
- 研究リソースシェアリングプラットフォーム「Co-LABO MAKER」 (株式会社 Co-LABO MAKER)
- L-RAD (株式会社リバネス)
- READYFOR College (READYFOR株式会社)
- Securite ACADEMIA (寄付) (ミュージックセキュリティーズ株式会社)

- 本スライドにおけるサービスカテゴリーの分類およびサービス概要は、認定後に文部科学省 A-PRAS 事務局が便宜的に整理したものです。各サービス提供事業者による分類・整理ではなく、また、申請の受理や認定審査は当該カテゴリーごとに実施しているものではありません。各サービスの詳細については、本スライド下部に記載の A-PRAS 関連ホームページおよび各提供事業者のホームページをご確認ください。

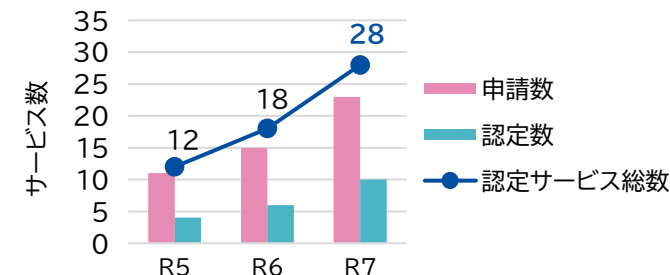




認定数・申請数は着実に増加し、制度活用ニーズが顕在化

制度開始以降、認定サービス数・申請数は堅調に増加しており、民間事業者にとって、研究支援サービスを展開するうえでA-PRASが一定の認知と位置づけを得ていることが確認されている。

申請数・認定数 および 認定サービス総数



研究支援サービスの「信頼の可視化」という役割は一定程度達成

文部科学省による認定を通じ、大学・研究機関における導入検討時の心理的ハードル低減や、サービスの信頼性・質の担保といった効果が、認定事業者や大学関係者へのヒアリングを通じて確認されている。一方で、アカデミア全体に対する制度認知の裾野拡大は今後の課題である。



産学官の対話・イベントを通じた副次的効果の創出

認定制度を契機に、事業者間の連携強化や産学官の直接対話の場を不定期で開催してきた。こうした対話は、サービス改善や課題解決のヒントを生み出す機会となっており、事業者からは定期的な議論の場を求める声が上がっている。アカデミアの期待や要望を把握できる点で、行政の施策検討にも資する効果が確認されている。



認定事業者向けイベントの開催
(R7.4.30)

https://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/kihon/1422215_00035.htm



RA協議会 年次大会でのセッション開催
(R7.10.21)

https://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/kihon/1422215_00043.htm

- ▶ 認定による一定の成果および、制度を起点とした取組が広がる一方で、制度運用における構造的な課題も認識されつつある（次頁紹介）

現行A-PRAS制度における課題の整理



「受動的な審査」に基づく認定制度であることによる限界

現行制度は事業者からの申請を前提とした仕組みであるため、研究現場において必要性が高いにもかかわらず、事業者からの申請がなければ認定・支援につながらない分野が存在する。



新たな研究支援サービス創出を後押しできない領域の存在

既存サービスの認定には一定の成果がある一方で、研究現場の潜在ニーズに基づく新サービスや、複数主体の連携による新たなソリューション創出を制度として能動的に誘導・伴走的に支援する仕組みが十分ではない。



申請数・認定数の増加に伴う審査・運営負担の増大

申請数・認定数は増加しているが、審査運営や認定後の対応に係る負担が拡大しており、制度の持続性や質の維持に対する課題が顕在化している。



研究現場起点の「共創の場」を持続的に支える体制の不足

研究者、事業者、行政官が対話・連携し、課題解決策を共に創出する「共創の場」の重要性が高まる一方、そうした取組を継続的に実施するためのリソースや仕組みを、現行制度の枠内では十分に確保できていない。

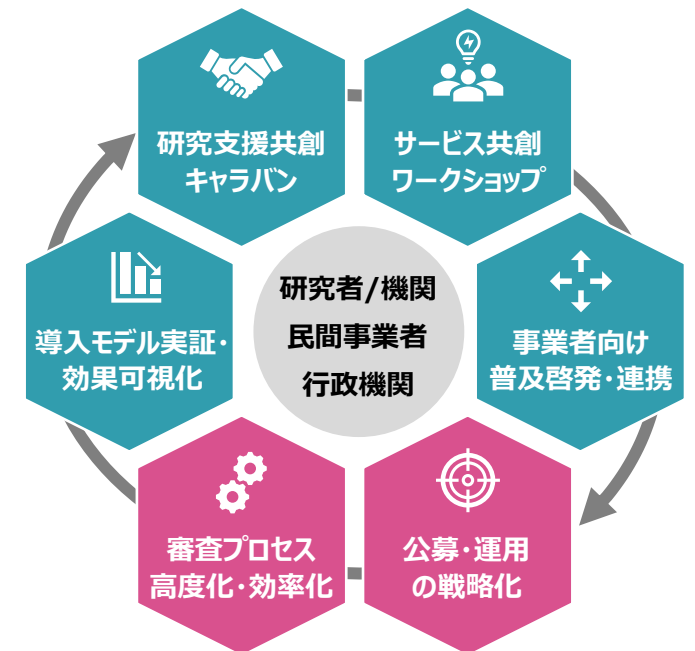
▶ **研究現場の変化や制度規模の拡大を踏まえ、
研究現場ニーズによりの的確に応えるための取組の在り方について、検討を進める必要がある**

「受動的な審査」から「能動的なエコシステム形成」へ

従来の「良質なサービスの認定」に加え、産学官連携による「現場課題起点のソリューション共創」を能動的に仕掛け、自律的で持続可能な研究支援サービスのエコシステムを形成するためのフェーズへと進化させる。

専門知見等を活用した「審査・制度運用の高度化」へ

認定基準の厳格性・公平性を堅持した上で、申請増やサービスの多様化に対応し、共創活動や実装事例から得られる知見を審査・公募・制度運用に的確に反映することで、研究支援サービスの質を継続的に高める認定・審査の仕組みへと進化させる。



研究支援サービスの持続的な発展に向けたエコシステム形成（案）

※ここに記載した取組は現時点での施策案であり、実施およびその内容を確定したものではありません。



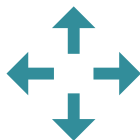
研究支援共創キャラバン（学会・イベント連携）

- **概要：** RA協議会等の学協会や研究大学等へ事務局が出向き、現地のアカデミアが抱える課題に対して、解決策を持つ事業者をコーディネート（同行）し、対話集会やピッチを実施する。
- **狙い：** 現場課題と解決策を直接結びつけるマッチングの場を創出し、課題解決を加速させる。併せて、現場の切実な課題や潜在ニーズ、制度的障壁を収集し、新規認定公募における「重点公募領域（後述）」の設定や政策改善に戦略的に還流させる。



サービス共創ワークショップ（対面・アイデアソン）

- **概要：** アカデミア・認定事業者・行政官による混合チームを編成し、単独製品では解決困難な「構造的な現場課題」に対し、複数サービスの連携によるソリューションや、制度改善策を共創する。
- **狙い：** 事業者へ現場ニーズに基づく新たな協業機会を創出し、その結果としてアカデミアにおける研究環境改善につなげる。併せて、対話から得られた課題解決のアイデアを重点公募領域や文科省内の関連事業との連携へ反映させる等、行政への機動的なフィードバックループを確立する。



事業者向け普及啓発・連携セミナー（業界団体連携）

- **概要：** 異業種やスタートアップ等の参入を促進するため、関連する業界団体と連携した説明会やセミナーを開催し、エコシステムへの参加プレイヤーを拡充する。
- **狙い：** 研究支援に未参入の層へアプローチし、多様な事業者の参入を促す。これにより、アカデミアにとっての「選択肢の多様化」を実現するとともに、競争環境の醸成による「サービス品質の向上・価格低減」を図る。



導入モデル実証と効果の可視化（オンライン・特設サイト上）

- **概要：** 研究支援サービスを大学運営や研究マネジメントの機能体系に即した区分を提示した上で、先行的な研究支援サービスの導入事例（成功・失敗含む）を分析し、定量的・定性的な「導入効果（ROI）」や「標準的な運用フロー」をモデル化して、本事業の特設サイト上に公開する。 ※特定サービスへの利益誘導とならないよう、モデルとして整理・類型化を行う。また、大学の根幹を損なわないような民間外部サービスを活用した「研究支援の在り方（大学と民間の役割分担）」の指針を掲載する。
- **狙い：** 「効果が見えない」「前例がない」という大学現場の導入障壁を取り除き、エビデンスに基づく意思決定を支援する。特定の事業者への利益誘導を防ぎつつ、モデルの標準化を通じて業界全体のサービスの質的底上げを図る。

認定制度の戦略的運用と審査プロセスの高度化（案）

※ここに記載した取組は現時点での施策案であり、実施およびその内容を確定したものではありません。



公募・運用の戦略化（ポートフォリオ・マネジメント）

- **概要：**「研究支援共創キャラバン」等を通じて把握したアカデミアの切実な潜在ニーズや、「科学の再興」「研究バリューチェーンの補完」等の観点から不可欠な領域を解消するための「重点公募領域」を設定し、募集要項での明示や有力サービスへの公募案内を通じて能動的に申請を促す。その際、従来の認定要件・審査基準については変更せず、厳格な審査を維持する。
- **狙い：** 申請待ちでは埋まらない「戦略的な空白」を解消し、アカデミアが真に渴望するサービスポートフォリオを構築する。「質の担保」を最優先としつつ、様々なサービス群をスタートアップから大企業まで最適なバランスでエコシステムを拡張させる。



審査プロセスの高度化・効率化

- **概要：** サービス・事業者のビジョンや公益性（科学技術・イノベーションへの貢献度合い）といった本質の定性評価は委員が合議の上で実施するというプロセスを堅持した上で、申請書式や評価シートの改良や、AIを活用した審査プロセス補助による「申請・審査の負担軽減」を進めるとともに、環境変化に合わせて実施要綱を柔軟にアップデートする。審査要件においては、外部専門機関等の知見も活用し、審査体制を強化する。
- **狙い：** 申請数の増加に対応した「プロセスの効率化」と、認定サービスの「質の維持・向上」を両立させる。審査の公平性と厳格な運用により制度の信頼性（A-PRASブランド）を強固なものにする。

(参考) これまで認定してきたサービスを「科学の再興」の項目に沿って分類

本スライドにおけるサービスカテゴリーの分類およびサービス概要は、認定後に文部科学省 A-PRAS 事務局が便宜的に整理したものです。各サービス提供事業者による分類・整理ではなく、また、申請の受理や認定審査は当該カテゴリーごとに実施しているものではありません。各サービスの詳細については、本スライド下部に記載の A-PRAS 関連ホームページおよび各提供事業者のホームページをご確認ください。

1. 挑戦的研究と資金の多様化

ハイリスクな挑戦や萌芽的なアイデアを実現させるための資源を提供する領域。

- Securite ACADEMIA (寄付募集支援) R1
- READYFOR College (クラウドファンディング) R2

※今後開拓すべき領域例

- 異分野融合の場の創出 (研究者同士を繋ぐセレンディピティ創出ツール)
- 民間フィナンソロピー・財団接続(個人篤志家や財団とのマッチング)

など

2. 国際頭脳循環と発信力

日本の研究者が世界で戦い、海外の研究者を呼び込むための「接続」を支援する領域。

- エディテージ (グローバル研究広報支援) R1

※今後開拓すべき領域例

- 海外渡航・滞在 生活支援 (ビザ手配、現地の生活セットアップ支援)
- 海外研究者の受入支援 (来日研究者向けの住居・手続き・言語サポート)

など

3. 高い生産性の設備環境

組織の壁を越え、必要な機器・場所・計算資源へ即座にアクセスできる環境を提供する領域。

- Co-LABO MAKER (ラボ・設備シェアリング) R2
- 研究機器シェアリング_日本電子 R1
- リサイクルネットワーク・マルチベンダーサービス・ラボストックサービス (研究資産保守管理・中古機器売トータル支援) R1
- GPU/サーバレンタル R5
- ターンキーシステム (研究機器購買・設置支援) R6
- データサイエンス共用環境 R7
- レンタルラボプラス (レンタルラボ探索支援) R7
- シェア・レンタルラボ_KRP R7

4. 研究時間創出と AI for Science

研究者が「研究そのもの」に没頭するための時間を生み出し、AI等によって効率性・生産性を最大化する領域。

- Cloud LaTeX (論文執筆環境支援) R6
- 学会運営サポート(学協会運営支援) R6
- Confit/SMOOSY (学協会運営・管理支援) R6
- ResercherDX (解析環境構築) R7
- ライフサイエンス受託分析コンソーシアム R7
- Trinka (論文執筆AI校正) R7
- オンラインジャーナル掲載サービス R7

※今後開拓すべき領域例

- 生成AI活用・自動化(論文要約・サーベイ自動化、実験プロトコル生成AI等)
- ラボ運営のBPO/代行

など

5. 人材の高度化と社会実装

博士人材がアカデミア内外で活躍し、研究成果を社会価値に変えるためのキャリアと出口戦略の領域。

- 博士情報エージェント (博士人材紹介) R1
- BRAVE (アカデミア研究事業化支援) R1
- リーン・オープン・インキュベーション (未活用特許の社会実装支援) R1
- L-RAD (未活用アイデアDB) R1
- JDream Expert Finder (研究者探索) R1
- アカリクキャリア (研究人材キャリア支援) R6

※今後開拓すべき領域例

- クロスアポイントメント実務支援(事務手続き・契約支援)

など

